

10.九州(地域別調査機関:(財)九州経済調査協会)

( -:回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店(営業担当) スーパー(店長) コンビニ(販売促進担当) その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	来客数の動き 競争相手の様子 販売量の動き 来客数の動き	・物産展やセール等のイベントを開催した結果、売上の確保ができた。 ・平日の販売促進を強化したところ、前年比102%で推移している。先月と比較すると4%ほど売上が上がっている。 ・量販店の売上が前年比103.0%、コンビニが同95.5%、ローカルスーパーが同114.1%となった。今月数字が良かったのは、130円の価格帯の菓子パンを120円に規格変更し、100円、120円の商品を中心に販売した結果である。 ・だんだんと年末の動きになっており、来客数は増加している。売上は前年比110%となっている。
変わらない		商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数が減少している。商店街の地域内は住宅が少なく、高齢者が多いため、年金問題、保険問題等で購買力がかなり低下している。
		一般小売店[生花](経営者)	単価の動き	・葬儀、開店祝い等の需要があるので、そこまで悪くはない。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・全館割引セールや恒例の物産催事は好調に推移し、来客数、売上は好調に推移しているが、シャワー効果はなかった。また10回無金利のクレジット催事でも、短期の分割が多く、長期分割は少ない。興味のある商品、必要な商品を必要な数だけ購入する傾向が強まっている。
		百貨店(企画)	単価の動き	・商品単価、客単価共に下降傾向が続いており、消費者の生活防衛意識は強まっている。しかし物産展において、目当ての商品に長蛇の列が出来る状況もみられ、決して消費能力が落ちているわけではない。
		スーパー(店長)	単価の動き	・客単価は前年比98%、買上点数も1点少なくなっており、客は買い控え傾向にある。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・食品や軽衣料など必需品の動きは変わらない。客単価は少し落ちてきたが、来客数が増えている。
		スーパー(総務担当)	お客様の様子	・食料品は同じ店で買うのではなく、安い店で買い回りをし、出来るだけ安い商品を購入しようという傾向がみられる。
		スーパー(企画担当)	それ以外	・11月上旬の温暖な天候の影響により、季節商材の動きが鈍い。また競合店出店の影響等もあり、既存店のみならず、新店・改装店舗の勢いも鈍化している。
		スーパー(経理担当)	販売量の動き	・原料価格高騰は落ち着いているが、食の安全に対する不安感や生活防衛意識により、買い控えが起きている。1品単価がわずかに上昇したが、買上点数は減少しており、客単価が落ちている。
		コンビニ(エリア担当・店長)	来客数の動き	・来客数が伸びており、前年並みの売上を確保しているが、客単価が減っているため、売上は伸び悩んでいる。
		衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・来客数が激減している。客との会話でも、株や投資信託で損したとか、将来が不安なのでうかつにお金を使えない、という声を聞くことが多い。客単価も落ちてきている。
		衣料品専門店(店員)	お客様の様子	・前年よりも来客数が少なく、非常に厳しい状況である。ただし特別な催事を行ったため、前年よりは上向きの数字である。通常の販売状態では、客足が少なく先行きが全く見えない。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・例年よりも来客数、客単価共にやや悪い。
		高級レストラン(スタッフ) 観光型ホテル(スタッフ)	お客様の様子 販売量の動き	・例年、大相撲の九州場所でにぎわうが、今年は景気の冷え込みもあってあまり良くない。 ・全国大会等の大型予約が前年の時点で決定していた。また婚礼に関しても、前年より件数、売上共に伸びている。

	観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・ガソリンの値下げはあるものの、仕入原価の値下げに反映されず、厳しい状況は続いている。また売上は減少傾向にある。
	旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・原油高が落ち着いたことや円高等により、若干ながら良い影響が出ている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・夜の人出が悪く、客は例年に比べると半分くらいである。
	美容室（店長）	お客様の様子	・そろそろ忙しくなる時期であるが、依然動きがない。客から、雇用調整で仕事なくなり、生活に余裕がないという話を聞く。
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・公共工事の受注した分を消化している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・季節的に物が動いていなければならない時期であるが、例年に比べると動きが鈍い。客は我慢している様子で、試着しても購入につながらない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	単価の動き	・ガソリンは徐々に値下がりしているが、景気は先行き不透明で、相変わらず消費者の買い控えは続いている。売上は前年に対し大幅な減少である。高額な商品が売れず、安価な商品の売上は伸びている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・高額品を中心に売上不振である。特に特選ブランド、美術品、宝飾品の売上が低迷している。また衣料品も、紳士、婦人共に不振であり、唯一食品部門だけが前年の売上をクリアしている状態である。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客は価格訴求をかけた商品に集中し、購入の際も悩んだ末に購入することが多い。自分に必要のない物は、價格的に納得しても購入しない傾向にある。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・景気の先行き不安で消費者の節約志向が更に強まっている。特に、衣料品は前年比1割程度減少しており、非常に苦戦している。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客の動向は先月と変わらず、必要な物以外は購入しない。客単価は下がる一方で、店全体の売上は厳しい状況である。
	コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・客の様子をみると、1点1点の単価を確認し、買上金額を計算した上で、必要最小限の購入しかしない。衝動買いの誘導を図る売場の動きも悪い。
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・客の財布のひもが非常に固くなっている。また、動きの良い薄型テレビの単価が大幅に下がっている。
	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量が前年より減少傾向にある。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・毎月行っているキャンペーンの売上が、最近落ち込んできている。年に1回参加している合同展示会も前年より悪かった。ただし店頭販売については大口の買上があり、少しは良かった。
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・高額商品より、普段使う低単価な商品しか購入しない傾向にある。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は下がったが、燃料油の購入は控えめである。暖房用の灯油の販促もスタートしたが、反応は今一つである。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・常連客の来店頻度が落ちており、団体客も減っている。
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・とにかく来客数が減っている。大河ドラマの影響から鹿児島県の観光客は増えたが、中心商店街に人通りは少なく、空洞化している。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・消費者の外食控えにより、レストランへの集客が悪く、一般宴会への出席者も減少している。また、宿泊施設の競争激化により、宿泊者数が減少している。
	都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・多少の団体客の利用はあったが、全体的には良くない。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・11月中頃から急激に来客数が減少した。一方、為替の影響により、高速船を利用した韓国ツアーは好調である。
	タクシー運転手	来客数の動き	・わが社も売上が大変悪く、ボーナスが出ない。忘年会シーズンで動く時期であるが、今年はその兆しがなく、夜の繁華街も大変客が少ない。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・プロ野球のキャンプ、ゴルフトーナメントが予定通り実施され、盛り上がりを見せた。ただ、個人旅行や宴会部門等の伸びがなく、予約全体としては減少傾向にある。

	観光名所（職員）	来客数の動き	・11月に毎年恒例の催し物を行ったが、大河ドラマの効果もあり、県外客を中心に来客数は多かった。ゴルフ場ではシーズンにもかかわらず、来客数が減っている。また、キャディをつけないセルフ利用が多くなっている。
	ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・来場者数が減ってきている。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・入場者数の1割を占めていた韓国人観光客がほとんどいない。地元客もキャンセル等が出ている。
	競輪場（職員）	単価の動き	・先月と比較すると、入場者数は増加傾向にあるが、発売額は減少している。1人当たりの単価が大きく落ち込んでいる。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場の来客数が低迷している。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地売買仲介の問い合わせがだんだん減ってきている。銀行関係の融資条件が厳しくなり、購買意欲がなくなっている。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・歳末商戦期間中であるが、来街者数が減っている。販売量、客単価共に下がり、最悪の状況である。
	商店街（代表者）	それ以外	・例年より早く寒波が来たため、衣料品が好調な滑り出しであった。しかし長続きせず、今月の売上も前年を下回った。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・客がし好品の買い控え傾向にあるなか、品数が少なく、商品単価も上がっており、厳しい状況である。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・客は本当に必要な物しか購入しない。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・50代以上の客は、将来に不安を抱えている人が多く、ミセス層の購買が極端に落ちている。不要不急の物や高額品、し好品の動きが極端に落ち込んでおり、今まで経験したことのない悪さである。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・商店街の空き店舗が更に増えている。百貨店の来客数はやや増えているが、買上単価、買上率共に前年からかなり低下している。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・例年、この時期はクリスマス需要が高まるが、クリスマスケーキの予約、ジュエリーの販売量、そしておせちの予約、すべて前年比80～90%である。唯一、紳士服のバーゲンのみ動きは良かったが、通常商品は全く売れない状態である。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・1品単価と客単価の低下幅がかなり大きくなった。衣料品関連は寒くなれば、売れるという状況ではなくなっている。食品関係の物産催事は好調であるが、全体としてはそれほど良くない。他店の状況も前年比90%前半であり、市況全体が冷え込んでいる。消費者の購買率が下がっていないことが、唯一プラス要素である。
	百貨店（営業推進担当）	販売量の動き	・富裕層の買上額が落ちており、高額品の売上に影響している。
	百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・来客数は前年比8～10%の減少が続いている。毎年話題となる北海道物産展では集客できたが、衣料品を中心に苦戦が続いている。買上単価、客単価も低下傾向にある。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・し好品の売上が大幅に伸びている。食品の中では、カップ麺、袋入り麺、味噌、クッキー等の菓子、コーヒー、ホットケーキミックス、サラダ油、とんかつソース、カレー等が前年比120%と伸びている。しかし、利益の確保は難しくなっている。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数、買上客数いずれも減少傾向にある。
	衣料品専門店	お客様の様子	・衣料品がよく動く月であるが、これまでにない最悪な状態である。客の購買意欲が全くない。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数は多いが、客単価や販売量はかなり減っている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・客の購買意欲がなく、全く売上が上がらなかった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・富裕層の客も買い控え傾向にある。	
乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・年内最後の需要期となり例年良い月であるが、今年は販売台数が非常に少なく、厳しい。	

		自動車備品販売店（従業員）	それ以外	・自動車産業のみならず、コンピュータソフト関連会社等においても減産、人員削減等が行われており、消費者の購買意欲は依然低下傾向にある。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	来客数の動き	・消費者の財布のひもは固くなっている。来客数が目に見えて減少している。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・街を訪れる人が少なくなり、商店街の空き店舗も多くなっている。食事の利用金額も下がり、材料の値上がり等もあるため悪い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・平日の歓楽街は、ほとんどにぎわいが無い。客がほとんどいない。
		通信会社（管理担当）	それ以外	・資金調達が難しくなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・自社による光回線販売数も大きく落ち込んでいるが、競合他社も落ちている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・円高、株価急落による消費の落ち込みで、視聴者の新規加入件数が減少している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客を訪問すると、会社の業績が悪いという話を耳にする。それぞれの企業が苦しんでおり、受注も厳しい状況である。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・法人販売の動きは良かったが、個人の動きは悪い。新商品の発売と旧商品の値下げを行ったにもかかわらず、新規契約、買換え共に販売台数は減少している。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・もともと売上は悪くなっていたが、得意先の客の動きも悪くなっている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・原油価格が下がったことにより、原油を使用している業種の動きが良くなっている。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国の影響や年末需要もあり、引き合いが多く、注文に応じられない状況にある。特に加工メーカーの国産志向は、我々原料メーカーにとって追い風となっている。ただ飼料高騰等による原料不足が大きな負担となっている。
	やや悪くなっている	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・やはり景気低迷が加速しており、販売価格等が下がってきている。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・資材の高騰や金利の負担の増大により、中小メーカーの取引先は非常に厳しい。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・銀行の融資の審査が厳しくなり、住宅ローンが組めない人が増えている。個人住宅の着工が進まず、契約に至らない。
		通信業	競争相手の様子	・手持ちの受注工事も底を突いてきた。また小規模工事が減少しており、客が減っている。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・2か月後支払いの約定となっているにもかかわらず、仕入先は納品当月払いで要求してきた。資金繰りが困難になっている様子である。
		金融業	取引先の様子	・建設業、小売業など以前から不振の業種に加え、自動車メーカーの減産の影響により、関連製造業が急速に悪化している。受注の減少だけでなく、従業員削減により、賃貸物件の空き部屋の増加など生活関連の産業にも影響がある。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・景気の先行き不安から緊急対策融資の申込をする中小企業が増えている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先への経営課題に関するアンケートによると、生産売上不振をあげる企業が増えている。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・契約高が月を追うごとに落ち込んでおり、引き合い案件もかなり減少している。
	悪くなっている	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・同業者やメーカー、問屋の倒産が相次いでいる。先が全く見えない。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・やや過剰な不況報道により、消費者の購買意欲はもろろん、企業の投資も抑制されている。建築申請も前年比3割程度減少し、建築業界全体の市場規模は急激に縮小している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今は最盛期であるが、受注は夏場よりも思わしくない。商社は在庫を売るような状態であり、仕入れをする状況にはならない。今後倒産する企業も出てくる。

	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械装置部品加工の受注が激減している。社内設計装置用の部品加工で何とか現状を維持している。	
	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・自動車の販売台数の減少により、取引先の1次メーカーすら受注減で苦悩している。金型は新規引き合いどころか更新すら無いような状況である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は非常に厳しい状況が続いている。特に九州地区の半導体の落ち込みは大きく、それにどう対応するか全く先行きの見通しはない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が極端に減っている。このままいけば仕事がなくなる。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の生産が前年比40%減となっており、厳しい。	
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・メーカー自体が工場を休業したり縮小したりしており、受注が激減している。また、取引先の人員削減が始まっている。	
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・輸出関連商品の荷動きがかなり悪くなっている。	
	金融業（従業員）	それ以外	・商店街の店舗が郊外に移転している。商店街の空き店舗が更に増加している。平日の通行量が少なく閑散としている。	
	金融業（営業職渉外係）	取引先の様子	・業績修正を行ったり倒産したりする企業が急増している。特に金融機関の融資がストップし、資金繰りが困難になっている企業が目立っている。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・取引先が倒産するなど、業況はかなり厳しい。来月以降の資金繰りを危惧している企業も多く、緊急対策融資、緊急対策保証制度の利用に関する借入れの申込件数が増えている。	
	不動産業	それ以外	・デベロッパーやマンション販売業者の倒産が多い。また、下請業者も仕事を辞めた等の話を耳にする。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒造メーカーの焼酎の販売状況が悪い。蔵を手放すメーカーも出る。	
	その他サービス業	取引先の様子	・市町村は税収の伸び悩みや国の補助金の削減により、予算が限られていることから、建設関係や調査関係の民間業者への委託について、契約以外のことを要求するようになってきている。契約以外のサービス業務、消耗品の提供などが求められるため、業務が赤字になるおそれも出てきている。	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人募集が低水準のまま推移している。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3か月前に比べて9.9%減少し、前年比23.6%の減少となっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・事業主都合による離職者が前年比70%の大幅増となり、前月に引き続き増加した。建設業は相変わらず経営困難な状態が続いており、関連する運輸業や製造業についても厳しい。また、銀行の貸し剥がし等により経営が困難になったという事業所も出てきている。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・事務所の閉鎖や支店の一本化などが急速に進んでいる。そのため、事務派遣社員の後任不要、新規採用予定の凍結など事務業務の合理化がかなり進んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・4年生対象の求人票受理件数が落ち込んでいる。前年比で3割減となっている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・例年通りの求人がない。特に、一般事務関係の求人が少なくなっている。
	悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣削減をする企業が増えている。特に製造業では、時間を短くしたり、休日を多くする等、経費削減を考えているところが多い。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・各企業自体の受注が激減しており、スタッフに対し有給取得を促す企業が出ている。また、年末に向け契約終了の相談企業が相次いでいる。すべての業界で人員削減を行っている。
人材派遣会社（社員）		周辺企業の様子	・地元大手企業の倒産や派遣社員の解雇など、身近に影響を受けている企業が増えている。	

人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・半導体関連等の派遣先において事業主都合での契約終了が多い。終了までいかずとも、数日製造ラインを止めたりと影響が出ている。
求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人取扱件数が前年を大きく下回っている。
新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・企業の倒産、経営不振による事業所縮小が相次ぎ、市場全体が冷え込んでいる。
新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・老舗の広告会社が経営難となっている。
職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・派遣社員を中心に雇用調整が行われている。
民間職業紹介機 関(支店長)	求人数の動き	・新規オーダーがほとんどない。客の姿勢は抑制から凍結へと完全に変わった。